

「東京で星を撮る (1)」

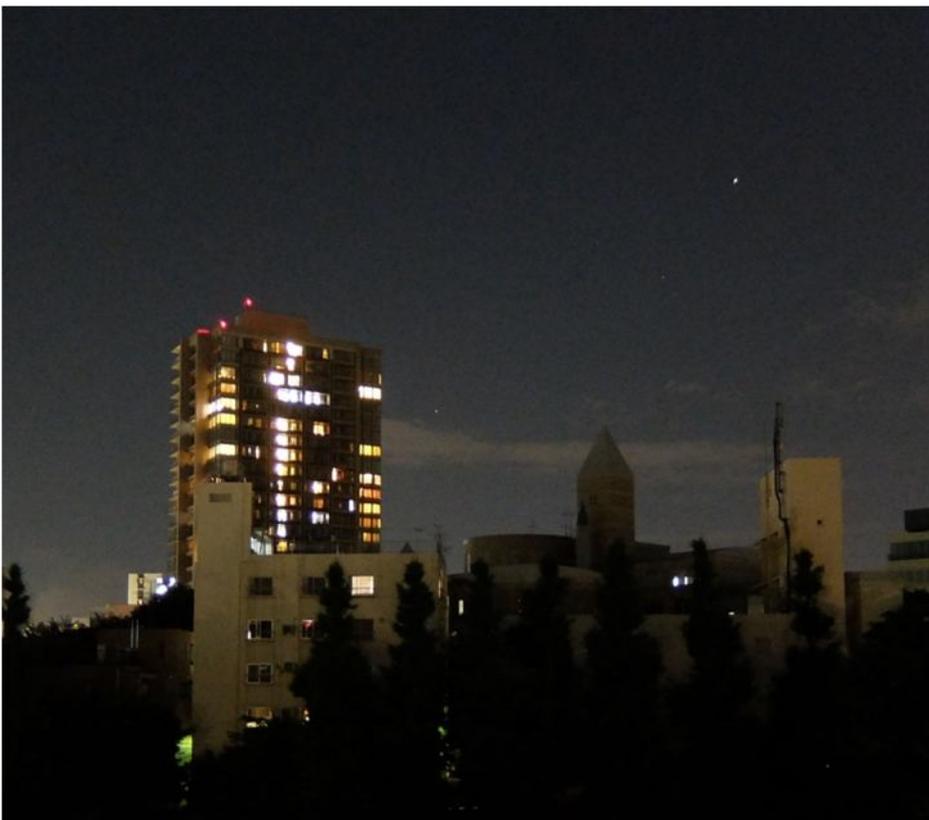
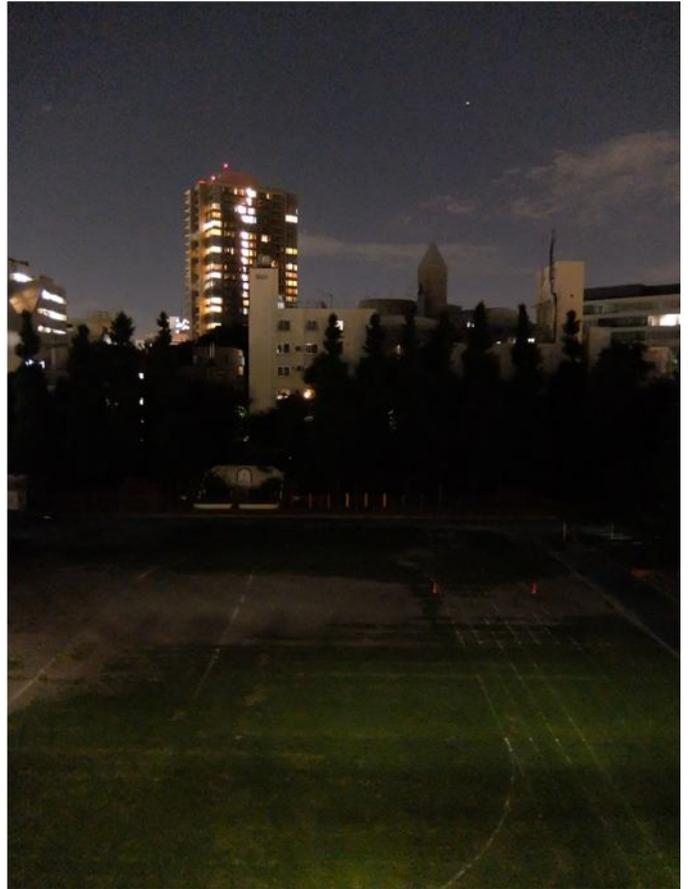
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地球と火星の最接近の日は過ぎたが、まだ一週間ぐらいは火星が異常に明るい状態が続くようだ。特にここ数日は天気がよく、シーイング(大気の安定度)も良いため、観望に適した晩が続いている。



校舎のベランダから、先生方と火星を眺めた。東京では普段、星など眺めないで、「え〜〜あれが、火星だったの!」という反応だった。

東京でも星は見えるし、今回の火星のように明るい



惑星なら、スマホやコンパクトデジカメでも、十分に撮影が可能だ。

上の写真は、校舎の屋上から、校庭や壁泉を入れて、広角で撮影したもの。都会の夜ならではの、青い夜空に明るい火星が浮かんでいる。

左の写真は、やや望遠にして撮影したもの。火星に加えて、明るいビルの右側に、小さく土星も写っている。いずれも、三脚は不要で、「夜景モード、手ブレ防止機能ON、手持ち」で撮影したものだ。

こうした情景的な天体写真を、ポケットにも入るコンパクトデジカメで撮影できるようになったのは、大変嬉しいことだ。職場からの帰り道にも、簡単に天体写真を楽しめる。